

事業の背景・目的

・実績報告書（別紙10-3）を基に、事業の背景や目的、必要性、地域における生物多様性保全上の課題等を簡潔に記載（300文字以内）
ヒョウモンモドキ保全地域協議会によるヒョウモンモドキの保護活動は平成24年に始まった。平成31年度の主たる活動として新生息地及び既存生息地で野生復帰させた生息域外保全個体群が継続して繁殖するように、それら全生息域での植生環境整備を励行した。また、追加復帰の必要に応えられるように既存飼育施設（せら県民公園）のほか、広島市森林公園昆虫館でも生息域外保全（累代飼育）を開始した。今後の課題として、ヒョウモンモドキが生息する湿地を恒久的に維持していくため、積極的に地域住民に参画できるよう取り組んでいきたい。

事業の内容

・実績報告書（別紙10-3）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

事業① 生息域外保全個体群の維持

- ・せら県民公園での累代飼育を順調に進めることができた。
- ・広島市森林公園昆虫館では、世羅町内の生息地で採集した幼虫の累代飼育を開始した。

事業② 野生復帰個体群のモニタリングおよび追加復帰

- ・新生息地における発生状況をモニタリングし、その評価に従って、数力所にせら県民公園の累代飼育幼虫を追加復帰させた。

事業③ 新生息環境の維持と追加創出

- ・新生息環境の維持に向け、植生環境整備を実施した。
- ・植生遷移が急激に進んでいる既存生息地の直近に、小規模ながら管理が容易で安定的な繁殖が期待できる生息環境を整備した。

得られた成果

・実績報告書（別紙10-3）を基に、・事業の成果、活動継続の見通し、事業終了後の展開等を簡潔に記載（400文字以内）

生息域外保全個体群を野生復帰させた新生息地では、2年目に当たる6月、全ヶ所で新成虫の飛翔が確認され、7・8月には幼虫巢が確認された。植生環境のさらなる改善や、生息域外保全個体群を追加復帰させたことで、当該地における繁殖の継続性の高まりが期待される。広島市森林公園昆虫館で生息域外保全を開始し、多数の2世代目の幼虫を得ことができ、それらを健全に越冬させることに成功した。これにより、3世代目に当たる累代個体群と、必要時における野生復帰個体群の確保が期待される。